



梅香忌

中泉代官 林 鶴梁を偲んで

はやし かくりょう

ぼい こう き

盆梅展

- 江戸時代の雛人形（山田家）
- 大久保幸美 一貫張り
- 金森よし子 切り絵と写真
- 竹山美江 創作布絵

令和六年二月十日（土）～十一日（日）

午前十時～午後三時

梅茶接待

《会場》 満徳寺会館

磐田市中泉一丁目四ノ七 TEL 0538-32-3558

〔共催〕 磐田市観光協会

〔後援〕 袋井市観光協会



《林鶴梁について》、「安政東海大地震」の災害と救援活動、

満徳寺には幕末の代官三学(高い教養と学問のある名代官)の一人、林鶴梁の義母の墓があります。

林鶴梁が中泉代官在任中の安政元年(一八五四)十一月四日午前九時。中泉代官屋敷は突然の激震に襲われました。震源が浜松沖八十キロ、マグニチュード八・四という「安政東海大地震」です。

代官所も倒壊して自らも被災していた鶴梁ですが、幕府の指示よりも早く代官自らの決裁をもって、敏速かつ積極的に広範囲の領民への救済活動を行いました。宿内の家屋のほとんどが倒壊し、さらには火災の発生により残らず焼きつくされた袋井宿では、代官自ら千人分の粥の炊き出しも行いました。「泥付き衣類のままにて宿村をまわり、手切り(代官の決済)を以て窮民どもへ粥炊き出し、または小屋掛け、根太板、老人へ綿など差しつかわす」と橋本佐内宛ての手紙にも記されています。

後に鶴梁は、勘定奉行の川路聖謨から「地震・水災等につき、取計らい行届き候段」褒詞を受けています。最下級の身分出身でありながら、自らの学識や信念をもって、一同心から代官にまで出世した鶴梁の、誠実で行動的な性格が窺い知られます。

中泉代官の後、羽州柴橋代官、「和宮様下向の御馳走賄御用」役、御納戸役、新撰組の前身である新徴組の支配役、昌平坂学問所頭取を勤め、明治十一年(一八七八)一月十六日、病床にて大小両刀を握り端座したまま七十二年の生涯を閉じました。

鶴梁は大変に梅の花を好みました。

「陣屋梅花盛開二付、役所一統之もの共、住居江相招キ、酒遣候事」『林鶴梁日記』 安政二年二月二十三日
とあるように、中泉代官所の梅の開花と透き通る香りを愛で、楽しんでいた様子が伺えます。

予告

第十一回 満徳寺寄席く露の新治独演会く 六月 二日(日) 午後一時半 満徳寺会館

ゲスト 神田鯉風

講談「林鶴梁物語」

初公演